



2020年オリンピック 東京開催決定

ピック・パラリンピック

加速する都市インフラの再構築

2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決まった。約4,554億円をかけて、競技場と選手村などが整備される予定だ。大会の開催に向けて、関連施設の建設や首都圏のインフラ整備の需要が高まると見込まれる。未整備あるいは老朽化が進む都市インフラを再構築することは、東京の都市競争力を高め、経済再生や国際化を加速させる推進力となるだろう。開催までの7年間で東京がどのように変化するか、期待が高まる。

道路

首都高速道路中央環状線、東京外郭環状道路、首都圏中央連絡自動車道の3環状道路や、オリンピックスタジアムと選手村を結ぶ環状2号線の整備が加速する。

空港

成田・羽田両空港の年間発着枠の拡充。羽田空港では国内線発着枠の国際線への一部振り替えや、5本目の滑走路の新設などが検討されている。

鉄道

空港から都心へのアクセスを改善するために、東京・丸の内地区の地下に新駅を設置。成田・羽田空港をつなぐ「都心直結線」の早期整備の機運が高まる。

